

令和 8 年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立橋北中学校	校長名	奥田 幸伸
児童・生徒数	504名	19学級（内、特別支援学級4）	教職員数36名

I めざす学校像（学校教育目標）

豊かなかかわりの中で、仲間とともに学び合う生徒の育成

〈めざす学校像〉

笑顔にあふれる生き生きとした学校
未来を創造する主体性を育む学校
家庭・地域とともに歩む学校

〈めざす生徒像〉

気づき、考え、行動する生徒
互いの人権を尊重する生徒
たくましく粘り強くやり抜く生徒

II 現状と課題

本校の生徒は、比較的落ち着いた態度で学校生活を送り、学習や自主的な活動に積極的かつ粘り強く取り組んでおり、学力の向上が見られる。部活動にも真剣に打ち込み、成果を上げる姿が多く見受けられる。一方で、「学校が楽しい」「友人関係に満足している」と感じる生徒が多い反面、心身の不調や学校生活への不適応を訴える生徒も一定数存在する。

令和7年度の全国学力・学習状況調査における生徒質問紙によれば、中学生の自己肯定感に関する項目において、本県は全国平均を上回り、年々上昇傾向にあることが明らかとなった。しかしながら、本校では県・全国平均を下回っており、「自分にはよいところがある」と思えない生徒が少なくない。また、様々な背景のもとで心身の不調を訴えたり、場合によっては不登校となったりする生徒も見られる。

こうした現状を踏まえ、令和5年度より本校では、生徒の自己肯定感を育むための取り組みを進めている。生徒の活動を価値づけ、勇気づける声かけを意識的に行うとともに、授業においては「分からないこと」を大切にしながら、互いに学び合える環境づくりを推進してきた。「分からないこと」は決して恥ずかしいことではなく、それが学びの出発点となる。また、分からないことを教えてもらうことで、「自分は大切にされている」という実感を得てほしいと考えている。

さらに、地域や社会に貢献する意識や利他性を育み、自己有用感を涵養することが自己肯定感の向上につながると捉え、総合的な学習において探究的な活動や地域と連携した取り組みを進めている。

「学び合い」と「探究」を両輪として推進することで、生徒の自己肯定感の向上を図るとともに、VUCAの時代において答えのない課題に対し、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見出す力を育み、よりよい未来の創り手となる生徒の育成を目指している。

III 重点目標

- 1 主体的・対話的に深く学ぶ姿勢の確立と授業改善の推進
- 2 忍耐強い精神を持って、目標を掲げ、夢に向かう姿勢の確立
- 3 心にゆとりをもって、周囲と笑顔で接する姿勢の確立と生徒指導の充実
- 4 展望を持ってたくましく未来を創造していく姿勢の確立と進路指導の充実
- 5 新たな価値を創造する力、対立やジレンマに折り合いをつける力、責任ある行動をとる力の育成
- 6 家庭・地域との緊密な連携により、安定した生活をする姿勢の確立
- 7 社会・地域の一員としてグローバルな視野と発信力を備えた生徒の育成

IV 具体的な行動計画

- 1 生徒が主体となって「学び合う」授業づくり
- 2 確かな学力と社会で生きる力を身につける「探究的な学習」の展開
- 3 人権教育の推進と充実、生徒会によるJRC活動、ボランティア活動の展開
- 4 実践力を育てる道徳教育と特別支援教育の充実の充実
- 5 学校運営協議会のしくみを生かした地域とともにある学校づくり、PTA、橋北地区青少年育成指導委員会等及び三重大学教育学部との連携
- 6 教職員が生徒と向き合える時間の確保と働きやすい環境づくり
（具体的な教職員の勤務時間縮減に向けた取組）
 - ① My 定時退校日を月2日以上設定することにより職員が自らの働き方を見直す。
 - ② 一人あたりの休暇取得日数を前年度比で年2日増やす。
 - ③ 会議の効率的な運営に努め、60分以内に終了した会議の割合増を目指す。
 - ④ 組織力を生かした取組をすすめ、月平均時間外労働の前年度比減およびを4.5時間以下を目指す。